

カリキュラム Curriculum	人文学研究科MC		ナンバリング Numbering	HUMEA6011J
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
10518	イギリス文化特殊研究a <Specialized Studies in British Culture a>			演習
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)	開講期 Semester	開講時間帯 Day and time	
英米文学	松岡 光治(MATSUOKA Mitsuharu)	春学期 (S pring semester )	月曜 : 2限	
講義題目 Title				
単位 Credit	2			
備考 Others				
履修条件 注意事項 Requirements for registration	授業で扱うテキストは比較的難易度の高い英語の小説であるから、時間をかけて文法と前後関係と単語のイメージを押さえた予習が必要となる。また、担当以外の箇所も真摯に予習する義務が課される。この授業に続けて後期開講の「イギリス文化特殊研究b」を受講することが望ましい。			
授業の目的 Purpose	<p>授業の目的は英語の高度な読解力を養い、イギリス都市文化の深層に隠れた真相を突き止めること。</p> <p>The aim of this class is to help students master advanced reading skills in English and look beyond the surface of British urban culture.</p> <p>英国ヴィクトリア朝(1837-1901)の都市文化を研究する一次資料として小説を使い、研究に必要な「基礎的理解力」のために、調査力、読解力、分析力、想像力、発表力、修正力を強化する。具体的には、英語文献の精読と関連文献の渉猟によって、当時の時代精神と社会風潮の表層的な現象を理解するための基礎力、そして個別の都市文化の深層に隠れた真相を読み取るための実践力の養成を目的とする。同時に、小説の原書の輪読を通して英語読解力の基礎を固め、将来高校や大学レベルの英語教員になるために必要な文法と構文の実践的な運用能力の養成も目指す。さらに、人口に膾炙した問題でも、新たな解釈ができるような独自の視点の発見に努め、論文執筆のノウハウを身につける。</p>			

<p>授業の内容 授業の方法 Content</p>	<p>ヴィクトリア朝の小説家（特にディケンズ、ギャスケル、コリンズ、ギッシング）の作品には、当時の人々が都市に対して抱いていたアンビヴァレンスをイメージ化した言説が充満している。ヴィクトリア朝の都市は、単なる背景を提供する場ではなく、綺羅星のように光かがやくと同時に、悪夢のように恐ろしい空間であった。都市の繁栄の裏面にあるスラム街、貧困、犯罪、売春、アヘン中毒などは、そうした都市空間の脆弱さを表象したものだと言える。授業では、このように近代人の意識が捉えた都市のイメージをできるだけ多くの点から考察する。今年度の前期は George Gissing (1857-1903) の <i>Demos</i> (1886) をテキストとして使用する。この小説は急進的な労働者の物語で、予期しなかった大いなる遺産の相続で社会主義運動の指導者になった男が手に入れた富と力は、労働者階級出身の彼の性格の欠点を前景化するだけで、そこには貧困が労働者たちを改善不能なほど墮落させるという作者の信念が見出せる。</p> <p>a. 初回の授業では、教員がギッシングの生涯、彼が活躍した後期ヴィクトリア朝のイングランドの状況を概説し、作品の冒頭部分の翻訳と注釈および文化的な鍵語の解説を行う。そのあと、次週からの担当者を割り振り、順番を決める。</p> <p>b. 担当者は、担当箇所の英文を文法、前後関係、内容語のイメージの各方面から精読し、日本語の翻訳を推敲し、語句注、鍵語解説、関連画像を入れたワード文書を作成し、担当時に教員と他の受講者に配布する。担当しない受講者も必ず毎週予習をし、質問とコメントを準備しておくこと。</p> <p>c. 授業では、担当者がテキストの音読と翻訳をし、その他の解説を加え、随時、教員と他の受講者が質問とコメントを投げかけながら、作者の意図や当時の時代精神と社会風潮について議論する。同時に、教員がいかにして英文を達意の日本語に翻訳するか、その技術を指導していく。</p> <p>d. 専用のメーリング・リスト ( <a href="mailto:matsuoka-graduate@googlegroups.com">matsuoka-graduate@googlegroups.com</a> ) が開設してあるので、授業時間以外でも、積極的に質疑応答を行う。</p> <p>e. 最終回は、精読したテキストの内容を踏まえ、後期ヴィクトリア朝の社会システムやイングランド人の伝統と国民性に対するギッシングの考えについて全員で議論し、それぞれ結論を導き出す。</p> <p>f. 各自が担当した箇所の翻訳その他の配布資料については、授業での質疑応答を踏まえて加筆修正し、学期末レポートとして提出する。</p>
<p>教科書 テキスト Textbooks</p>	<p>George Gissing, "Demos" <a href="http://victorian-studies.net/graduate/gg-demos.pdf">http://victorian-studies.net/graduate/gg-demos.pdf</a></p>
<p>参考書 References</p>	<p>以下のウェブ・サイトと文献を活用すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Gissing in Cyberspace <a href="http://victorian-studies.net/Gissing.html">http://victorian-studies.net/Gissing.html</a></li> <li>○松岡光治（編）『ギッシングの世界』（英宝社、2003年） <a href="http://victorian-studies.net/gissing-no-sekai.html">http://victorian-studies.net/gissing-no-sekai.html</a></li> <li>○松岡光治（編）『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化』（溪水社、2007年） <a href="http://victorian-studies.net/gg-150.html">http://victorian-studies.net/gg-150.html</a></li> </ul>
<p>受講生の 自宅学習 Preparation and review</p>	<p>ギッシングの作品はすべて電子化されている。授業で扱う作品以外もできるだけ時間を見つけて読むこと。 <a href="http://victorian-studies.net/GG-Etexts.html">http://victorian-studies.net/GG-Etexts.html</a></p>
<p>成績評価の 方法と基準 Evaluation</p>	<p>担当箇所の発表（50%）、質疑応答への参加（30%）、学期末のレポート（20%）。60点以上を合格とする。</p>
<p>連絡方法 Contact information</p>	<p>随時、質問等を受け付けるので、事前にメールか電話で連絡すること。 研究室は文系総合館608号。メール ( <a href="mailto:matsuoka@nagoya-u.jp">matsuoka@nagoya-u.jp</a> ) 電話 ( 789-4864 ) 。</p>